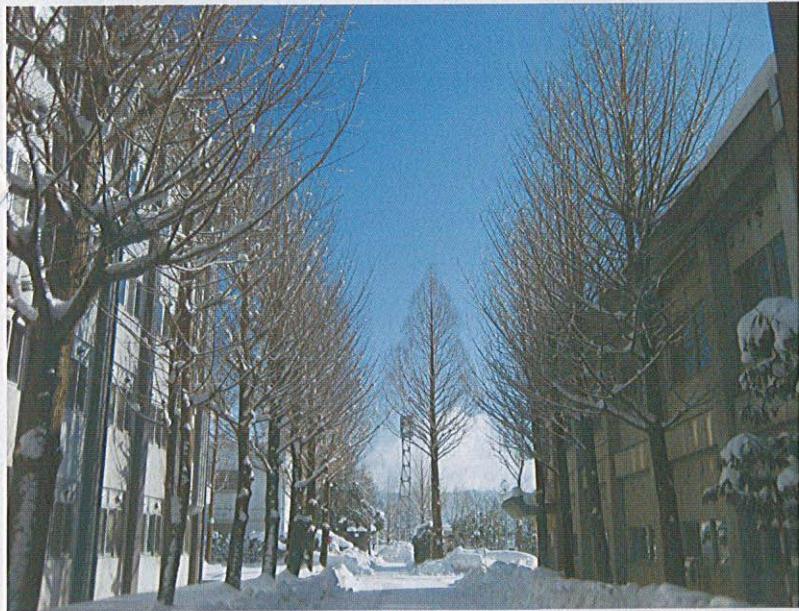


青武台だより



No.192

平成24年3月16日発行

目 次

ページ

1. 卒業生・修了生に贈る言葉	2
校長・教育後援会会長・進和会会长	
2. 卒業生クラス紹介	4
3. 修了生クラス紹介	9
4. 各学科卒業研究・指導教員紹介 専攻科特別研究テーマ・指導教員紹介	11
5. 退職にあたって	14
6. 学生の将来と進路	18
7. 活躍する仲間	20
全日本学生室内飛行ロボットコンテスト大会 デザインコンペティション2011 in 北海道 全国高専プレゼンテーションコンテスト ふくいソフトウェアコンペティション2011 歯みがきロボットコンテスト 平成23年度優秀学生賞 独立行政法人国立高等専門学校機構理事長表彰を受賞 平成23年度資格取得者 海外インターンシップ	
8. 見学旅行について	26
9. 校外研修について	28
10. 遠足について	30
11. 第17回マグネットコンテスト表彰式	31
12. 第8回さばえめがねワクwakuコンテスト表彰式	31
13. 中学生の皆さんへ	32
中学校だより 福井市 川西中学校	
14. 学園通信	32
平成24年度入学者選抜について 平成24年度入学者選抜実施状況一覧 平成23年度留学生との懇親会報告 平成23年度校長特別賞・校長賞受賞者一覧 平成24年度教育後援会総会	

卒業生・修了生に贈る言葉



卒業おめでとう

校長 池田大祐

卒業する皆さんには、入学してからこれまで多くのことを学習し、クラブ活動に励み、人格形成に努め、また、各自の人生を自らの力で切り拓いていく力を養ってきたことでしょう。ここに至るまでには色々なことがあったと思います。楽しいことばかりではなく、多くの苦難を経験し、幾度となく挫けそうになったことだと思います。様々な試練に耐え、それを克服して、晴れて本校から旅立つ日を迎えることとなった皆さんを心から祝福します。とは言え、皆さんが無事この日を迎えることができたのは、決して皆さんだけの力ではありません。常に皆さんを支え、励まして下さった皆さんのご家族、ご親族等の方々のお蔭であり、皆さんは何よりもまずこのことに感謝するとともに、本日の卒業の喜びを分かち合っていただきたいと思います。

丁度1年前に発生した東日本大震災は、我が国に未曾有の被害をもたらしました。多くの命が奪われ、物的損失も途方もない規模となっており、引き続いて起きた福島原発事故が市民生活や産業に与える影響も深刻です。被災した人々の不自由な生活は現在も続いている。国を挙げての復旧・復興事業が進んでいますが、元の姿やもっと整備された姿になるには、極めて長い時間と莫大な資金と龐大なエネルギーが必要です。最新の科学技術の力も不可欠です。国民全体が世代を超えて再建に努力しなければなりませんが、特に、これから社会に出る皆さんに寄せられる期待には大きなものがあります。是非、皆さんには、本校において身につけて柔軟な思考、問題解決能力、専門的な知識・技術、チャレンジ精神等を生かして、我が国の再興に貢献できるような、更には、國の

境界を越えて英知が求められている地球規模的問題の解決に取り組むことができるような技術者を目指していただきたいと思います。

今年は、我が国に高専制度が創設されてから50周年を迎えます。高度経済成長期に誕生した高専は、社会の要請に応えて優れた人材を養成し、我が国の発展に大きな役割を果たしてきました。早期から5年一貫の専門教育を行い、実践的・創造的技術者を育成する高専は国際的にも高い評価を得ています。例えば、平成21年に発表されたOECDの高等教育政策に関する報告書においては、日本の高等教育に対して厳しい目を向けつつも、高専については極めて高い評価を行っています。また、昨年秋には、ワシントン・ポスト紙が日本の高専制度を大きく取り上げています。

本校は、所謂4期校として昭和40年に開校し、これまで約7,000名の卒業生を輩出してきました。卒業生は様々な分野で活躍しています。昨年度には、これを踏まえて本校の卒業生が県内企業等で活躍する姿を紹介する冊子を刊行しました。また、活躍の場を国際舞台に求めている先輩達もいます。皆さんの中にも、海外インターンシップに参加したり、国際シンポジウムで研究発表を行うなど積極的に海外と接する人達が出てきており、頼もしく感じています。

皆さんの進路は進学や就職等様々ですが、本校の卒業生・修了生であることに自信と誇りを持って、何事にも積極果敢に挑戦し、常に志を高く掲げ、次代を担う人材として大きく成長されることを願っています。

卒業生・修了生に贈る言葉



明るい未来

教育後援会会長

齋藤利勝

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。また、御子息、御息女を支えてこられた御家族の方々のお喜びもひとしおのことと思います。心からお祝い申し上げます。

卒業生の皆さんには、これまで何度も何度か人生に交差点があったと思います。その交差点をまっすぐ進んだのか、それとも右に左に進んだのか、何れにしてもたどり着いたのが今ですね。

皆さんは、今まで交差点にたどり着き、「卒業」という合図でそれが決めた方向に向かって進みはじめています。

この交差点を進みはじめた皆さんに一つ心に留めてほしいことがあります。

それは、これから甘えは通用しないということです。進む方向は様々ですが、早かれ遅かれ皆さんは「社会人」という同じ場所にたどり着きます。

成人式を迎える「大人」になり、社会に出て「社会人」になる。つまり、社会に参加する大人になるということです。社会に参加する大人には甘えは通用しません。

長引く不況、世界的な経済の低迷、今の社会には右肩上がりの華やかな話は聞こえてきませんが、明るい未来は、私も含めこれから社会人となる皆さんを作っていくものだと思っています。

人生の中でもっとも大きな交差点の一つを進んでいます。しっかりと自分の進むべき道を進み、本校で学んだ知識と技能を十分に發揮し、何事にもチャレンジする精神とヘコタれない気持ちをもってすればきっと明るい未来が待っています。

がんばって下さい。

皆さんのご活躍を期待しております。



『絆』

進和会会长

前川忠博

皆さま、ご卒業おめでとうございます。

昨年の世相を表す漢字は『絆』でした。3月11日の東日本大震災の後、全国的に「がんばろう日本」という言葉が良く聞かれるようになりました。今までにない大災害を目のあたりにし、これは何とか復興のお手伝いをしなければいけないと思い、ほとんどの人が義援金を出されたのではないのでしょうか。

『絆』を広辞苑で調べると、①馬、犬、鷹などの動物をつなぎとめる綱、②断つに忍びない恩恵、離れがたい情実とあります。①は目に見えるつながりですが、②は目には見えない気持ちのつながりです。今回の震災のあとのように、災害にあった人達に思いを寄せ、何かしてあげたいという強い気持ちが『絆』としてつながっていると思います。

『絆』には、夫婦の『絆』、親子の『絆』、家族の『絆』といろいろありますが、今日、卒業される皆さんには、福井高専在校によってクラスの『絆』、恩師との『絆』、学年の『絆』、学科の『絆』が築かれたことだと思います。太い『絆』もあれば、細い『絆』もあると思います。太い『絆』も一瞬にして切れる時もあれば、切っても切れない細い『絆』もあります。『絆』というのは、信頼関係の上に成り立っています。我々6,800名の同窓会の『絆』が、皆さんにとって、社会に出てからの太い太い『絆』の一つになってほしいと願っております。そして、皆さまが多くの人との出会いにより、より良い『絆』を築いていけることを心からお祈りいたします。

なお、住所変更等がありましたら下記までご連絡ください。

連絡先

〒916-8507 福井県鯖江市下司町

福井高専内 進和会事務局

卒業生クラス紹介

機械工学科



人のフリ見て

機械工学科5年担任 村 中 貴 幸

高専での5年間の教育課程を修了し、卒業という節目を迎えられ、おめでとうございます。担任として皆さんと接してきましたが、人の成長を見守ることは何物にも代えがたい楽しみでした。

さて、4月からそれぞれの新しい道へ一步を踏み出すわけですが、早速社会人として道を歩き出す人、専攻科や大学へ進学し、どの道を選ぶか考える人、専門学校へ進み、歩みだす道のために準備をする人、35人の卒業生それぞれの道がありますね。道のスタート地点に立った時、ことわざの一つ「人のふり見て我がふり直せ」を思い出してみてください。上司は部下百人に同じことを百回言ってはくれません。隣人の話す内容、自分は関係ないって、知らん顔していませんか？ここはしっかり盗み聞きします。前を見つめ背筋を伸ばして、一步一步をマイペースに、楽しみながら歩いていけば良いと思います。でも、他人の振り・・・見てみると、同じ道でも違った景色が見えてくるかもしれませんよ。

高専という選択

5M 杉 野 龍 泉

僕の高専で過ごした5年間はあっという間に過ぎてしまったように感じる。でもこの5年間の一秒一秒が、僕にとってはかけがえのない時間だった。この大切な時間を一緒に過ごした最高の仲間達と教職員のみなさんに対して心から感謝します。

僕がこの学校に入学したのは、まだ桜の花がきれいに咲いている暖かい日のことだった。まだ見ぬ高専生活への期待を胸に、僕はいよいよ憧れの福井高専に入れることを心から喜んでいた。しかし、それと同時に不安もあった。「先輩にいじめられないだろうか」「友達はできるだろうか」そんな誰もが考える事だった。しかし、そんな不安は桜と共に散っていく、夏の暖かい風が吹くころには僕の学校生活も素敵なものに変わっていた。

僕が高専生活で初めて得た教訓は、どんなことに対しても不安に思うだけ損だということだ。なぜなら僕達の未来は誰でもない僕達で作っていくのだから。

卒業生クラス紹介

電気電子工学科



守破離

電気電子工学科5年担任 丸 山 晃 生

卒業生の皆さんおよび保護者の方々、ご卒業を心よりお喜び申し上げます。私事、本校に赴任して丸10年になる節目の年に、初めて担任したクラスの皆さんが卒業することを嬉しく思います。

卒業生の皆さんの入学以降この5年間には、国内外の大規模な自然災害、感染症の大流行、経済危機など様々なことがありました。そのような逆境を乗り越え、校外研修、工場見学旅行、校外実習、就職・進学活動、卒業研究などを一つ一つ経験し成長してきたのではないでしょうか。平素の高専生活も含めて、成長のための道なのです。

さて、あらゆる道の修行には「守・破・離」という段階があります。守破離において、「守」は師に教えられたことを正しく守り、しっかりと身につけること、「破」は師の教えを身に付けた後に、他流をも研究すること、「離」は自己の研究を極め、独自の道の一歩を踏み出すことと解釈することができるでしょう。

卒業生の皆さんには、今、一つの守破離を経験し終えたところです。そして、また新たな守破離が始まります。

さらば福井高専！

5E 村木俊介

卒業となると通いなれたこの学校が、顔を見るのが当たり前だった友達が、顔しか知らないあの子が、怖かった先生が、寒い通学路が、毎日のあたり前の風景が当たり前でなくなってしまうと思うとちょっと寂しいです。でも、卒業し新しい環境の中に入っていくことがすごく楽しみです。共に卒業するみなさん、この福井高専を出た人々はずっと仲間です。楽しいことがいっぱい待っているけど、いろいろ大変なことも僕たちを待っているかもしれません。もし、周りに誰もいなくても、福井高専の仲間たちがともに頑張っているということを胸に一生懸命生きていこうではありませんか！後輩のみなさん、5年間は意外と早いです。存分に高専生活を楽しんで勉強してください。そして、お世話になった先生方、事務の方々、掃除のおばちゃん、いろんな人に支えられての高専生活でした。本当にありがとうございました。僕たちも頑張るので、皆さんも体に気を付けて頑張ってください。

卒業生クラス紹介

電子情報工学科



電情20期、学科もクラスも成熟！？

電子情報工学科5年担任 斎藤 徹

まずは、電子情報20期のご卒業の皆さん、おめでとうございます。20期ということで学科の誕生と共に生まれ、5年間の思い出と共にようやくの門出を迎え、思いも様々だと思います。

電子情報も20年ということで、学科自体も情報系科目中心になつたり、再び電子系にも力を入れるようになつたりと糺余曲折のあった中、最近は創造系を交えたカリキュラムに落ち着き、次は実際の成果が求められる節目に突入です。

そしてこのクラスも、能登地震で新入生宿泊研修がなくなるドタバタで始まり、2年ではクラスがドタバタする中、担任を引き受けました。

この中で工場見学旅行・体育祭・インターンシップ・卒業研究と様々なイベントを重ねながら、ドタバタも落ち着きに次第に変わってきた中の卒業です。さて学科同様に、これからは就職先や進学先で本当の実力を試される節目に突入です。

そして、実は私も教員生活20年。私も頑張ろう！、電子情報も頑張ろう、皆さんも頑張ろう！

1/3の人生論

5EI 久世彩加

私は高専で自分が生きてきた4分の1の時間を過ごした。小さい頃を除けば実質3分の1くらいかもしれない。この5年間私には色々なことが起こり、今では4つも下の学生と同じ校舎で勉強している。まだ二十歳と自分に言い聞かせながらも、年をとったなあと思う。

そもそも高専に入学したことが人見知りな私にとってまず挑戦だったし、入学してからは新しいことの連続だった。自分の所属する学科で集まつた時には女子学生の数が少なく、しかも仲良くなれなそうで不安だった。なぜなら皆見るからに女子高生という雰囲気で何を話せばいいのかわからなかったからだ。後でずけずけと物を言い合えるくらい仲良くなってからお互いに初めは仲良くなれないと思っていたことを知った。人間関係は第一印象とは全く違うものになる。だからこそ、これから先どんな人と出会いどんな関係を築けるのかは自分次第である。そして私はもうすぐ社会人になる。今度は不安に思うわけでなくそれが楽しみだ。

卒業生クラス紹介



物質工学科



諸君らの闘いはこれからだ

物質工学科5年担任 西野 純一

物質工学科卒業生の諸君へ、御卒業おめでとう。君たちは、今、新しいステージに立った。でも、諸君らは、4月から始まる闘いの準備をしなければならない。そして、君たちは、志をしつかり持ち、努力し続け、戦い続けなければならない、君たちの目標を達成する日まで。そのために、目標を達成するための戦略をたて、戦術レベルで実行しなければならない。口ボットに取って代わられないように、目や耳で見たり聞いたりするのではなく実践の場で自らの実力を高めなければならない。就職組は、学歴を気にする必要はない、常に勉強を続けることが最高の学歴である。現在では、放送大学を始め学ぶ意志さえあれば、学び続けられる。進学組は、日本の将来を背負って立つ気概を持って、困難な時代の日本のために頑張ってほしい。君たちにならできる。でも、健康が最も大切だ。死なない程度に皆がんばろう。幸運を祈る！

高専生活を振り返って

5C 藤田 佳菜子

私が5年生になってすぐの4月の物質工学科の新入生歓迎会のとき、私は新入生の皆さんに、学校生活を楽しんで困難も乗り切って欲しいということと、卒業するときに何かひとつでも出来るようになったことや手に入れられたというものがあってほしいと言った覚えがあります。この5年間の高専生活を振り返ってみると、普段からクラスメートとしていた他愛ない話や、一つ一つの学校行事が実はとても貴重なものだったんだと思います。そんな高専の仲間たちとのたくさんの楽しい思い出が私の手元には残りました。課題の締め切りに追われたり、学校行事などのイベントの準備で焦ったりなど、色々と大変なこともありましたが、全部楽しんで乗り切れたと思います。

これから、私たちのクラスはばらばらになってしまうけれど、この5年間で学んだことを生かして、また同じ5年間を過ごしたこの最高の仲間たちとの思い出を忘れずに、これから的人生を歩んでいこうと思います。

卒業生クラス紹介

環境都市工学科



ピリオドと句点

環境都市工学科5年担任 武井 幸久

みなさん、御卒業おめでとうございます。今、此処で、一つのピリオドあるいは／そして句点が、みなさんの履歴に打たれるわけです。一方、ピリオドも句点も新たな始まりをも意味しています。ピリオドや句点とそれに続く文章や行為との間に、みなさんは考えて、とにかく当座の間に合わせの筋道をつけようとするのか、永遠の目標を立て、準備して、その目標の達成に向け勇気と覚悟の言葉や行動を繋ぐのか、唯まんぜんと無為の様態に留め置くのかを問われます。意地の張り方がその前提や目標と共に問題なのです。

先頃、この国の未来に関して、人口指標が暗い雰囲気を伴う形で公表されました。年金や国債の問題、国際競争力や国力の低下、臆病で意気地のない人たちの書き出す脚本。それを信じて、間に合わせ的に生きるのか、無為の様態に留まるのか。

この国の輝かしい未来像は画けます。その歴史と未来を世界に貢献する位置へと必ず導けます。そのためのみなさんの勇気と覚悟に期待します。

5年間を振り返って

5B 橋本 大知

思い返して見ると、高専という5年間は、自分にとってはあっという間に過ぎ去ってしまった印象を受ける。たしか1年次は、高専に対する不安と期待でいっぱいだった。2年次になると、ようやく高専にも慣れて、そこで環境都市工学科の皆さんに会った。3.4年次は、あいかわらずのメンバーで、校外研修・体育祭と大きな行事を乗り越えた。あの時期は、皆真面目で必死に勉強してたよね。

最後に5年次。この年が一番充実していたように思う。皆、就職・進学が決まって、自分自身も進学先が決まった時は、本当にうれしかった。

この5年間、高専ではたくさんの事を学んだ。たくさんのかけがえのない仲間とも出会った。だから、卒業する直前になって、まだ皆と一緒にいたいと思う自分がいる。でも、離れてから気づく大切さってあると思うから、皆バラバラだけど、次のステージで頑張ろう。アディオス。テヘペロ。

修了生クラス紹介

生産システム工学専攻



22歳の頃

生産システム工学専攻主任 山本 幸男

皆さん、専攻科修了、本当におめでとう。良かった。関係者の一人として、ホッとしました。実を言うと、少しだけ心配していました。だからかなあ・・・感慨もひとしおです。

最初のうちは進路のことに対しても正直あまり積極的じゃなかったようです。しかしインターンシップを終えて学校に戻ってきた頃から急にエンジンがかかって、相談する姿勢もグンと真剣味が増してきましたように感じました。きっとこれが「成長」の1プロセスなのかもしれません。特別研究も、いろいろと苦労した分、今こうして学位記を手にした時の達成感は何物にも代えがたいと思います。

社会に出たらまた新たなハードルが待っています。頑張ってください。失敗しても、少し休んでからまたチャレンジしてください。世の中はそんなに捨てたものじゃないですよ。

ふと思いました。「自分が22歳の頃、楽しかったなあ。」あの頃の友達とは、今でも付き合いがあります。本音でね。

人という字は、人と人が支え合ってできている

2PS 挺屋 尚広

これは、かの有名な3年B組（環境都市3年ではない）金ハ先生の言葉である。この言葉を聞いて、私は「この字、支え合ってはいない」と思った。この字を紙に書くと、明らかに一画目が二画目より長くなる。つまり、一画目の人は二画目の人に支えられている構図になる。支え合ってはいない。しかし、この構図は私の7年間の高専生活で多く見られた。例えば、先生が研究や進路の相談に快く乗ってくださる時である。このとき、私は完全に人という字の一画目となっている。この他にも先生方には何度も二画目となって支えていただいた。先生方には終始支えられっぱなしである。ちょっとと言い過ぎたかもしれない。私はこれから社会人になるが支えられるばかりでなく、時には自分が支える側になりたい。これが金ハ先生の言う支え合いであると思う。最後に、高専生活で支えてくれたみなさん、ありがとうございました。支えてあげたみなさん、せめて感謝してください。（笑）

修了生クラス紹介

環境システム工学専攻



色々な能力

環境システム工学専攻主任 辻 野 和 彦

専攻科13期生の皆さん、修了おめでとうございます。環境システム工学専攻の中でも、環境都市工学科出身の学生は本科の担任として3年間、専攻科委員として2年間の合計5年間、皆さんの成長を見守ることができました。全員の進路が決定し、そして修了を見届けることができ、正直に言うと…ホッとした。

皆さんは、工学基礎コースが導入された最初の学年でしたね。ものづくり科学ではグループ学習が行われ、低学年の時から「チームワーク」の大切さを学んできたと思います。また、「基礎学力」だけでなく、高学年から専攻科にかけて、「エンジニアリングデザイン能力」や「プレゼンテーション能力」を養うことができたと思います。いよいよ、世の中に出てその能力を実践する時が来ました。技術者としてリーダーシップも発揮しながら、これまでに培った色々な能力を発揮して社会のために頑張って下さい。今後の皆さんの活躍、心から期待しています。

将来、さらに成長した皆さんに会えることを、今から楽しみにしています。

7年間という重み

2ES 藤 田 崇 史

私が高専に入学してから7年が経ち、修了の時を迎えるました。7年というと小学校よりも長い時間でしたが、私にはとても短く感じました。一年生の頃、担任の先生が「5年間なんてあつという間だから、卒業したときにここが成長したと胸を張って言えることを1つでもいいから作ろう」と言われていたのを思い出します。その5年にさらに2年を加えた7年間で、私は入学当初と比べてここが成長したと胸を張って言えることが、残念ながらあまり考えつきません。しかし「大人になった」と感じています。見た目や体格だけでなく、世の中に対する考え方や、物事の見方が変わりました。これは、自主性を重んじる高専ならではの変化だと思います。私は高専で社会を生き抜く力を得ることが出来たと実感しています。最後に、在校生の方は今ある貴重な時間を大切に過ごしてください。また、今までお世話になつた先生方に深くお礼申し上げます。

各学科卒業研究・指導教員紹介

平成23年度 学科別卒業研究・指導教員一覧

機械工学科

氏名	卒研テーマ	指導教員
朝井直樹	自律小型除草ロボットの除草機構及び走行機構の改良と評価	亀山建太郎
安久朋秀	ロボコン用ロボットの3DCG化に関する研究 高専ロボコン2010「Air Walker」	安丸尚樹
飯田直人	新しいシステムズエンジニアリング実験に関する研究	五味伸之
井尾允	熱伝導シミュレーション精度向上のための熱伝達係数の同定	松尾光恭
伊地智航	塩化ビニルパイプを用いた構造物及び加工マニュアルの製作	亀山建太郎
稻田将弥	画像処理を用いた仮燃加工糸の糸太さの評価	金田直人
上坂凌司	ボールオンディスク摩耗特性に及ぼす摩擦条件の影響に関する基礎研究	加藤寛敬
笛吹茂司	分子動力学法による固液相変化の微視的数値解析	芳賀正和
大橋祐介	HPT(高圧ねじり)加工した純鉄のボールオンドィスク摩耗特性	加藤寛敬
上山銀次郎	新しいシステムズエンジニアリング実験に関する研究	五味伸之
川上亮太	雑音条件下における自動除草ロボットの制御シミュレーションに関する研究	亀山建太郎
木下裕貴	感温液晶を用いたマランゴニ対流熱伝達の可視化実験	芳賀正和
木村大生	二軸型ディスクフリクション仮燃における加工糸の生産および施燃部の張力評価	金田直人
齋藤紘夢	板材のR曲げ加工におけるスプリングバック変形挙動	村中貴幸
佐藤克哉	刃先交換式非軸対称ドリルの切削特性に関する研究	千徳英介
杉野龍泉	板材のR曲げ加工におけるスプリングバック変形挙動	村中貴幸
鈴木辰朗	3次元空間ポインタの精度向上に関する研究	亀山建太郎
田角尚大	斜板式ピストンポンプ・モータにおけるピストン挙動の数値計算	田中嘉津彦
塚本健斗	マイクロバブルを含んだ液体燃料に関する基礎的研究	藤田克志
辻大樹	機械振動による異常予測に関する研究	五味伸之
中川将吾	フェムト秒レーザーによる金属材料のナノ加工と評価	安丸尚樹
中村一真	斜板式ピストンポンプ・モータにおけるしゅう動部の摩擦特性と潤滑状態	田中嘉津彦
西山徹	斜板式ピストンポンプ・モータにおけるしゅう動部の摩擦特性と潤滑状態	田中嘉津彦
畠山卓也	工業用純チタンの焼付き防止法に関する研究	村中貴幸
早水哲平	画像処理を用いた仮燃加工糸の糸太さの評価	金田直人
藤居良	アンケートを使用した測定能力予測に関する研究	五味伸之
細田啓介	フリーズドライによる高分子溶液の微視的構造の観察	藤田克志
堀内慎	ロボコン用ロボットの3DCG化に関する研究 高専ロボコン2010「Air Walker」	安丸尚樹
南谷真央	摩擦表層のトライポメタラジー	加藤寛敬
村中祐樹	ナノ周期構造を付与した高機能切削工具の開発	千徳英介
山形祐介	有限差分法による電子挙動解析の解析方法の検討	芳賀正和
山本喬久	熱伝導シミュレーション精度向上のための熱伝達係数の同定	松尾光恭
由比大介	熱現象理解のための分子動力学法による実験方法の開発	芳賀正和
鷺田善幸	フェムト秒レーザーによる金属材料のナノ加工と評価	安丸尚樹
HAIRUL AZIZAN	二軸型ディスクフリクション仮燃における加工糸の生産および施燃部の張力評価	金田直人

電気電子工学科

氏名	卒研テーマ	指導教員
飯田哲生	ニューラルネットワークを用いた手書きひらがな文字認識	丸山晃生
五十嵐彬宏	給電振幅誤差がリニアアレーランテナの等リップル指向性に与える影響	大久保茂
伊藤壮	地域情報共有システムのユーザビリティとセキュリティの向上	大久保茂
上田直	植物の発芽と成長に及ぼす電界効果	川本昂
川崎紅平	レスキューロボットシミュレーションの研究	河原林友美
川尻晃平	GAを用いた距離型ファジイ制御ルール作成に関する研究	佐藤匡
熊田和浩	放射線測定データ解析プログラムの作成とその利用例	前多信博
斎藤裕太	周波数スペクトルと感情の関連性	丸山晃生
坂下晃太	非線形デジタルフィルタ ESDSに関する研究	佐藤匡
柴田晃平	RFスパッタ法によるCuInS ₂ /ZnOヘテロ構造の試作に関する研究	山本幸男
竹内慶行	周波数スペクトル解析によるピーク抽出と音階判別	丸山晃生
田中祐介	Arduinoと超音波センサを用いた清掃ロボットの開発	河原林友美
田邊冬夢	高温超伝導における臨界電流の温度依存性と転移のメカニズムの理論的考察	石栗慎一
谷口修一	小型放射線測定器の特性比較と環境放射線測定	前多信博
藤堂隼	気体電離型放射線検出器と測定回路の作製	前多信博
時岡祐弥	真空蒸着法によるAgGaTe ₂ 薄膜の作製に関する研究	山本幸男
永井雅浩	高温超伝導コイルの断面形状最適化	石栗慎一
中野匠	地域情報共有システムの高機能化	大久保茂
野田宏彰	PICを利用した放射線計数回路の作製	前多信博
畠昌宏	放射線測定データ解析プログラムの作成とその利用例	前多信博
林美里	迷路探索型ロボットの製作	米田知晃
伏里直樹	多層カーボンナノチューブを用いたベースストレス脳波電極「多層カーボンナノチューブの濃度依存性」	川本昂
前川拓也	レベル制御を用いたリニアアレーランテナの等サイドローブ指向性決定法	大久保茂
前田麻人	鮮銳化テンプレートを用いた遺伝的アルゴリズムによる顔検出	丸山晃生
前原孝司	超音波センサを用いた姿勢制御に関する研究	佐藤匡
町原享佑	ポケコンを使った放射線データ収集回路の作製	前多信博
松田剛志	マイクロロボットを用いた教育用教材の開発	河原林友美
水上加奈子	鉄イオン注入による鉄シリサイド形成に関する研究	米田知晃
南出大旺	最適解探索アルゴリズムを用いた制約付き回路素子配置の最適化	丸山晃生
宮腰悠平	フラッシュ蒸着装置の設計に関する研究	山本幸男
向瀬貴樹	多層カーボンナノチューブを用いた水素センサ	川本昂
村木俊介	カーボンナノチューブを用いたベースストレス脳波電極	川本昂
森下温基	入力制限があるシステムの制御に関する研究	佐藤匡
安岡晋平	PICマイコンとロータリーエンコーダを用いた河川の水位計測システムの開発	米田知晃
山蔭駿平	真空蒸着法により作製したCuAlSi ₂ 薄膜の熱処理効果	山本幸男
山口あき	真空蒸着法によるAgInS ₂ 薄膜の作製に関する研究	山本幸男
山口啓太	距離型ファジイ推論法を用いた倒立振子振り上げ制御に関する基礎研究	佐藤匡
山崎航志	垂直回転運動系に対する角度計測装置の試作	佐藤匡
山田孝一	電動式モビリティの製作	米田知晃
山田裕也	色素増感型太陽電池の開発	川本昂
渡邊晃典	高温超伝導トロイダルコイル形状の最適化	石栗慎一

各学科卒業研究・指導教員紹介

電子情報工学科

氏名	卒研テーマ	指導教員
青山直史	ARを用いた仮想キャンバスマップの制作	奥田篤士
飯田晶彦	自律型ロボット向け走行制御プログラムの開発及び早期モデリング教育の提案	青山義弘
五十嵐大晟	文字列のベクトル解析による異常コードの検知	奥田篤士
井上朋紀	個人に適したキーボード配列～日本語入力のために～	蘆田 昇
内山大輔	四足歩行ロボットの歩容生成・評価環境の開発	西 仁司
笠嶋悠平	STA技術を用いたディジタルコンテンツの制作	前川公男
片岡翔一	シリカガラスの失透における結晶相転移メカニズムの研究	前川公男
川口享洋	タッチパネル端末における操作の検証	蘆田 昇
久世彩加	ネットワーク利用可能な組み込みOSの開発	高久有一
小林貴也	早期プログラミング教育のためのプログラミング環境構築	蘆田 昇
阪井祐太	複素力学系におけるフラクタル画像の研究	下條雅史
島田将行	河川増水に対する氾濫監視システムの構築	奥田篤士
関 勇人	銀河系のシミュレーション	下條雅史
高木良和	プラズマ波動加熱における統計性	野村保之
谷川直矢	剛体の運動シミュレーション～均一格子法～	下條雅史
月田達也	人工無脳の開発	奥田篤士
出口晃範	流星のビデオ観測データ処理～輻射点と落下予測点の導出～	前川公男
戸嶋剣斗	早期プログラミング教育のためのプログラミング体験法の提案	蘆田 昇
直江克純	多重モーメント法による移流方程式の数値計算	高久有一
中川翔太	BFA(Backtrack Free path planning Algorithm)を用いた歩行ロボット経路計画	村田知也
中川翔太	自律型ロボットの走行制御プログラムの開発	青山義弘
初一雄将	クラウドコンピューティングを用いた地域安全マップシステムの開発～サーバ編～	斎藤 徹
八田道宣	H8マイコンによるDSPラジオの制御	前川公男
原 知義	画像処理で取得した三次元情報を用いた自律ロボット制御	斎藤 徹
房川夏樹	動物学を用いた四足歩行ロボットの歩容生成	西 仁司
間所佑介	OpenSocialを用いたSNS上で動作する地域安全マップシステムの開発～ユーザ間のマップ情報共有～	斎藤 徹
南川和輝	早期プログラミング教育における教材の作成	蘆田 昇
本山史明	最適車間模型におけるボトルネックによる渋滞形成	野村保之
山下孝祐	クラウドコンピューティングを用いた地域安全マップシステムの開発～ユーザインターフェイス編～	斎藤 徹
山田泰己	自律型ロボットの走行制御	青山義弘
山本 優	剛体の運動シミュレーション～均一格子法～	下條雅史
吉川春菜	地球磁気圈様プラズマ閉じ込め磁場におけるStörmer問題	野村保之
ツエンデー	自律型平行二輪ロボットの開発	高久有一

物質工学科

氏名	卒研テーマ	指導教員
青木耀平	ホタルルシフェラーゼの基質脱離機構における自由エネルギー変化	佐々和洋
井上遙介	半回分乳化重合に及ぼす連鎖移動剤の溶解度の影響	加藤 敏
梅田紗央里	エレクトロポレーションによるメダカ胚への遺伝子導入法とトラップベクターの構築	川村敏之
大塚康平	シリカハウス対策用機能性ふすまのガス吸着機能に関する研究	上島晃智
大森悠司	ヒト大腿骨の皮質骨断面形状解析	平井恵子
小川 恵	ウェットプロセスによるシリコンの表面形態制御	常光幸美
川崎洋平	多官能型ピラシン骨格配位子の合成	松井栄樹
河原沙紀	未利用バイオマス有効利用に向けた海洋性乳酸菌のスクリーニング	高山勝己
衣川千里	硝酸銀水溶液から合成される銀へのポリビニルビロドン分子量の影響	西野純一
向當健司	未利用バイオマス有効利用に向けたバイオ燃料電池の基礎研究	高山勝己
小山友希	ウェットプロセスによるシリコンの表面形態制御	常光幸美
坂本 丞	水溶性セルロース誘導体からのポリウレタン樹脂の合成	松井栄樹
清水美佳	ウッドピッチ舗装材の開発と評価試験法	小泉貞之
下出晃平	化学工学実験のイノベーション3	加藤 敏
新明昂太	材料工学実験のイノベーション2	加藤 敏
高島宙見	植物カルス培養の学生実験に於ける最適化	上島晃智
高野綾弓	ヒト大腿骨の皮質骨断面形状解析	平井恵子
高村しいか	エレクトロポレーションによるメダカ胚への遺伝子導入法とトラップベクターの構築	川村敏之
田邊森人	ウェットプロセスによるシリコンインターポーラ形成技術の開発	常光幸美
谷川愛実	シクロヘキセンのエポキシ化	津田良弘
中面谷浩樹	バイオマス発電廃棄物の有効活用法	小泉貞之
中嶋駿介	デンプン系廃棄物からバイオエタノールの生成	吉村忠與志
中出有紀	カフェインの生体影響評価法と生理活性制御研究	川村敏之
野坂奈央	植物カルス培養の学生実験に於ける最適化	上島晃智
畠 宏亮	AMBERを用いたフィトケラチン重金属吸着の解析	佐々和洋
日吉裕紀	有機リンバイオセンサーデバイス構築のための基礎研究	高山勝己
廣田侑也	シクロヘキセンのエポキシ化	津田良弘
福島亜美	シクロヘキセンのエポキシ化	津田良弘
藤田佳菜子	木材からのセルロース成分分離と選択的糖化法の開発	松井栄樹
古屋淳之介	土壤から取得したジプロモビフェニル分解菌の特性解析	高山勝己
別般太陽	タンパク質の自己組織化に対する分子動力学的解析	佐々和洋
水島卓也	物理化学実験のイノベーションII	西野純一
宮崎 紋	物理化学実験のイノベーションII	西野純一
ハ木謙一	外部配位サイトを有する水溶性フタロシアニン化合物の合成	松井栄樹
山岸彩加	廃棄物となるおからの有効利用	吉村忠與志
山岸将之	竹粉の有効利活用に係る調査研究	小泉貞之
山本悠太	セルロース系廃棄物からバイオエタノールの生成	吉村忠與志
渡邊綾野	濁度性廃液の浄化法の開発におけるマイクロバブルの活用	小泉貞之
ノルファラビン	木材からのセルロース成分分離と選択的糖化法の開発	松井栄樹

各学科卒業研究・専攻科特別研究テーマ・指導教員紹介

環境都市工学科

氏名	卒研テーマ	指導教員
青山周平	天日乾燥浄水汚泥の物理的性質と水分滲出特性について	山田 幹雄
井上広平	既設構造物を対象とした丸太による液状化対策工法に関する研究	吉田 雅穂
伊吹美香	足羽川河道の経年変化及び擦り付け区間における河床の安定性	廣部 英一
今村聰志	2011年東北太平洋沖地震による冠水域と漂流物の推定	辻野 和彦
上野卓也	高須川河口変動と汀線変化に関する研究	田安 正茂
大鎌有日	持続可能な交流生活圏（環境都市）～越前町を対象にして～	武井 幸久
紺田麻未	福井県内の景観計画の策定状況とその運用に関する研究	江本 晃美
川井裕司	防災教育のための3D VR動画の作製	辻野 和彦
小泉勇樹	eコミマップを用いた地域防災支援ツールの構築	辻野 和彦
白崎佳祐	足羽川河道の経年変化及び擦り付け区間における河床の安定性	廣部 英一
高島悠樹	地域協働による九頭竜川水系日野川の砂礫河原再生に関する研究	奥村 充司
高松亮太	高須川河口変動と汀線変化に関する研究	田安 正茂
田中貴拓	コンクリートにおけるエネルギー解放率の次元を持つた破壊靭性値の推定	阿部 孝弘
田中 優	持続可能な循環型交流生活圏	武井 幸久
田村奈緒子	InSARを用いたDEM生成におけるTanDEM-X画像の適用性について	辻子 裕二
辻岡 晃	木造建築物の解体材を用いた液状化対策技術に関する研究	吉田 雅穂
永宮督久	次世代コミュニティパークの提案—学びがつなげる人の和—	江本 晃美
橋本大知	斜面災害モニタリングでの利用を想定した多時期NDVI画像を用いた植生変化解析	辻子 裕二
福岡周也	複合領域標準テキストの作成—空間情報学を事例に—	辻子 裕二
福岡 悠	天日乾燥浄水汚泥の物理的性質と水分滲出特性について	山田 幹雄
町井陽太	高須川河口変動と汀線変化に関する研究	田安 正茂
松陰高大	環境都市における合意形成について	武井 幸久
三田村真紀	天日乾燥浄水汚泥の物理的性質と水分滲出特性について	山田 幹雄
宮脇紀亘	丸太を用いた軟弱粘性土の地盤補強対策技術に関する研究	吉田 雅穂
村上豪佑	コンクリートにおけるエネルギー解放率の次元を持つた破壊靭性値の推定	阿部 孝弘
村田拓海	丸太による液状化対策地盤が長時間地震動を受けた場合の影響に関する研究	吉田 雅穂
森 優希	足羽川河道の経年変化及び擦り付け区間における河床の安定性	廣部 英一
山口舜也	芸術と共に生する集合住宅の提案—住み続けられる陶芸村—	江本 晃美
山田智史	地域協働による九頭竜川水系日野川の砂礫河原再生に関する研究	奥村 充司
米田 豊	地域協働による九頭竜川水系日野川の砂礫河原再生に関する研究	奥村 充司
和田萌実	コンクリートにおけるエネルギー解放率の次元を持つた破壊靭性値の推定	阿部 孝弘

平成23年度 専攻科
特別研究テーマ・指導教員一覧

生産システム工学専攻

氏名	特別研究テーマ	指導教員
朝倉将之	多層カーボンナノチューブを用いた水素センサ	川本 昂
市野貴史	ソーラー発電における太陽追尾とその効果	前川公男
射庭昌志	四足歩行ロボットの歩容生成	西 仁司
尾嶋史郎	共鳴トンネル現象を利用したスイッチングデバイスの創成	石栗慎一
木嶋 順	HPT加工した極低炭素鋼の摩耗特性と金属同士の凝着力測定の試み	加藤 寛敬
正玄 匠	携帯電話のGPS機能を利用した災害情報収集システム	大久保 茂
竹内裕太郎	工業用純チタンの耐焼付きプレス法の開発	村中貴幸
挺屋尚広	遺伝的アルゴリズムを用いた顔検出と顔照合	丸山晃生
鶴原健太郎	斜板式ピストンポンプ・モータにおけるしゅう動部の摩擦特性	田中嘉津彦
中垣内祐紀	圧力センサと慣性センサを用いた運動分析システムに関する研究	米田知晃
中島 駿	CIS系薄膜太陽電池のバッファ層の作製に関する研究	山本幸男
宮下真人	粘弹性流体のダクト内流れの3次元数値シミュレーション	藤田克志
數原由貴	FPGAを用いた組み込みシステムの開発	青山義弘
吉田廉浩	マイクロロボットを用いた情報教育用プログラミング環境の開発	河原林友美

環境システム工学専攻

氏名	特別研究テーマ	指導教員
井上麻衣	ウェットプロセスによるシリコンの表面形態制御—シリコンインターポーラ形成技術の開発—	常光幸美
大滝千皓	マイクロバブルを用いた高効率燃料の基礎研究	小泉貞之
加藤良平	三里浜海岸における高須川の河口変動と河口周辺の汀線変化について	田安正茂
栗盛由貴	石灰を使用しないコンニャクの製法	上島晃智
重野里加子	二酸化チタン担持シリカゲルを用いた脱臭装置の開発と基礎研究	吉村忠與志
末永 英	福井市の上水道管路を対象とした耐震化指標の提案に関する研究	吉田 雅穂
土谷佳穂	フィトクラチン表層発現酵母の重金属吸着材としての応用	高山勝己
長田亜美	中心市街地の街路空間の安全性と景観に関する研究～福井市、越前市を対象として～	江本 晃美
西村 潤	有用微生物群を用いた河川の浄化	上島晃智
端川真理絵	草本系セルロース廃棄物からのバイオエタノール生成—稲藁—	吉村忠與志
藤田崇史	高須川の流出解析	田安正茂
吉村清香	持続可能な環境都市の地球モデルと家・庭図式	武井幸久
和田健吾	マルチエージェントシミュレーションを用いた避難行動に関する研究	田安正茂

退職にあたって

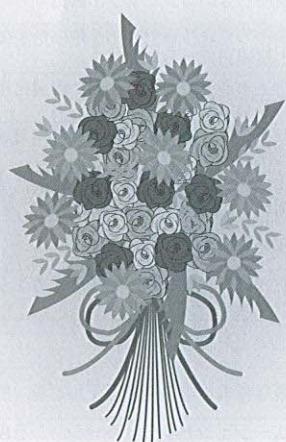


退職にあたって

一般科目教室(自然科学系) 宮田 一郎

平成元年4月に福井高専に採用していただき、23年の長きに渡りお世話になりました。素晴らしい学生達と、教職員の皆様に恵まれて大変に有意義な年月を過ごさせていただきました。この間に全学科の担任を経験させていただきました。(環境都市工学科は2度)さらには、工学基礎コース(F5クラス)を最後の年に担任させていただき、全学科コースを担任できたことは望外の喜びでした。また、北一麻呂先生、吉村忠與志先生とともに柔道部の指導教員を努めさせていただき、全国高専大会や北信越高校柔道大会に参加することができました。現在は、部員数が減少し厳しい状況ですが、柔道部員の活躍を願っています。

最後となりましたが、福井高専の益々の繁栄を願っております。



F君へ(退職にあたって)

一般科目教室(人文社会科学系) 前田 安信

前略 その後お元気でしょうか。君が訪ねてきてくれてから、半年近くが経ちました。その時にもお話をしたと思いますが、今年の三月で、小生は定年を迎えます。

在職中の二十二年間を振り返ってみると、様々な出来事が去来しますが、その中でも、最も印象深いことの一つが、昨年の君の訪問でした。

その時君は、近々仕事を辞め、来春看護学校を受験するつもりだと言いました。そして、そのような行動の契機が三月の大震災にあることも。ああいう大災害が発生した場合、最も緊急かつ必要な作業の一つが医療活動だが、あの時自分は何もできなかつた。それが悔しく残念でならない。

だからこれからは看護師として災害時等の救援活動に貢献したいというのが君の趣旨だったと思います。君には言わなかつたのですが、あの時私は、君のような青年が一人でもいる限り、この国はまだまだ捨てたものではないという感動とともに、嫉妬としか呼びようのないような不思議な感情にも襲われていました。

もし仮に「青年」とはと問われたら、私は貴っ先に「正義感」を持つ者と答えます。私が君に嫉妬を覚えたのは、恐らく、君が青年らしくきらきらと輝いて見えたからではなかつたかと、今は思っています。

君は今、確か二十三歳のはずですが、その君と同じ頃の小生は、陸奥の一隅で、暗澹たる未来の前に立ち尽くすばかりの毎日を送っていました。

中城ふみ子の「冬の皺よせゐる海よ今少し生きて己の無惨を見むか」(乳房喪失)という歌を知ったのもそのころだったと思います。以来四十年、私はついに「青年」にはなれませんでした。だからこそ、君には「青年」を貫いてもらいたいと思うのです。ありがとうございました。お世話になりました。

退職にあたって



高専に来てよかったです

電子情報工学科 前川 公男

このたび、1991年4月に着任して以来21年間の福井高専での教員生活に一区切りを付けることになりました。ここまでたどり着けたことは皆様のご支援の賜物とこころから厚く御礼申し上げます。大学を出てそのまま4年間技術職員を勤めた後、結婚を機にUターンして工業高校に10年勤務しさらに教育委員会で5年間働いた後の転職でした。このまま高校教員を続けていると勉強をしなくなるのではないかと考えたことがきっかけでした。

もし大学に残っていたら、もし高校に残っていたらどうなっただろうかと考えてみました。どちらにしても南極観測隊には参加できなかっただろうという結論に達しました。では私は、南極観測隊員になろうとして福井高専に来た訳ではありませんでした。

現在は高校でも課題研究という取り組みがなされているようですが、転勤当時は、高校と高専のギャップに悩み、卒業研究のテーマを探すのに苦労しました。創設間もない電子情報工学科の学生の皆さんと一緒にになって、何か継続的に取り組める卒業研究のテーマが無いものかと考えた中で、以前興味を持って取り組んだ「流星散乱通信」の経験を研究に活かそうと「流星電波観測」のためにビーコン電波の発射を始めたのが1996年の春でした。その観測法に「HRO」と名付けました。

そのころは1998年にしし座流星群の活動が最大になるということで流星観測ブームになり、Windowsで動作する自動観測ソフトも開発されて、福井高専から発射される電波を受信して高校の

天文部や大学の天文サークル活動で電波観測が行なわれるようになりました。

最近日本では、流星電波観測が下火になり中心は同様の方法を採用したベルギーのグループに移っています。「HRO」は一応 Wikipediaにも出ていて、Googleで検索すると上位から5番目くらいに見つかります。

1997年の秋頃、電波流星観測グループの仲間から昭和基地にオーロラに電波を当てて超高層大気の動きを探るレーダを建設しているのが、電波が専門で電子機器のことも判る隊員を募集しているとの電子メールを貰ったのが南極に行くきっかけとなりました。

私自身が南極観測隊に参加することは、どの職場でもできないことはありませんが、高専に勤務しなければ実現できなかつたことがあります。それは、南極から戻ってきて昭和基地で観測した銀河電波の強度測定データからオーロラの活動を推定することを卒業研究のテーマとしたところ、それに興味を持って取り組んで尾崎光紀君(現在金沢大学理工研究域電子情報学類助教)が金沢大学に編入して4年目に観測隊員に選ばれて研究観測を行なつたことです。昭和基地から戻ってから罹った燃え尽き症候群も、彼の協力を得て行なつた丹南地区の小学校などの南極教室で吹き飛び、その後の高専での生活に張りが出るようになりました。やはり高専に来てよかったです。最後に皆様方のご健康と、福井高専の益々のご発展を心からお祈り申し上げます。ありがとうございました。

退職にあたって



お手本？

電気電子工学科 前多 信博



定年の実感

物質工学科 吉村 忠與志

早いもので、30年ほど前に着任した福井高専も、この3月で定年になります。着任当初は5年生4学科（電子情報工学は未だなかった）の授業を担当しました。試験やレポートで、読みやすい字を書く学生が多く「製図の基礎ができている」と感じました。しかし、当時高専の知名度は低く、求人も少なかったようです。よく似た状況の大学もあり、入試制度を変えたり、学部や学科の名称を変えたりしていました。他方、高専は基礎教育を充実し、実力のある技術者を育てる地道な方向を選び、求人も次第に増えてきました。それから何年か後、日本経済のバブルがはじけ求人人数が底だった年に、5年電気の担任をしました。クラス全員の進路が決まった後も、多くの会社からの求人が続き、卒業生が評価されていることを実感しました。

話は前後しますが、5年担任の何年か前に1年電気の担任（3年まで持ち上がり）をしました。今の学生の皆さんには信じ難い事でしょうが、当時は1年生から学科毎のクラスになっていたので、空き時間には、随时電気の導入教育が可能でした。しかも、年度末には「そのまま全員」電気2年に進級させれば—持ち上がりれば—よく、昨今の1年担任の先生方に比べれば、楽だったようです。1年生も2年を（電気科卒業）を目指して、落ち着いて勉強していました。良い時期に良い経験をする事ができました。

長い年月と多くの論議を重ねて導入されたゆとり教育を、改めることになったようです。福井高専でも問題が生じたら改めながら、これからも優秀な技術者を育て続けて下さい。

昭和49年4月から福井高専にお世話になり、途中豊橋技科大にもお世話になりながら38年という年月とともにこの青武台で教員人生を駆け抜けきました。この3月で定年退職します。そう言っても全く実感がありません。今の心境をまとめると、

人生をかけた青武で定年と気付けばかける車停まらず

といった実感です。

これで第一の人生は終焉で、この4月からは第二の人生を歩まさるを得ません。私の教員としてのモットーは“人へのお節介”です。与えられたことであれ、自分から仕掛けてさせてもらい、見返りは要求しないことです。“させてもらって有難う”的気持ちを大切にしています。主にさせてもらった対象が学生であるので、定年を機に“学生さん、付き合ってくれて有難う”と申し上げます。

私が大学を卒業した頃は大学紛争の真っ最中でしたが、運よく福井高専に奉職できました。期待に満ち満ちて念願の教員生活を始めました。折から文部省の指示で専門分野での情報処理教員の養成があり、私に白羽の矢が止まりました。命令させたからにはやるぞと、最終的には日本コンピュータ化学会という学術団体までに成長させることができたのも福井高専での後押しのお蔭と感謝しています。

教員生活の傍ら、趣味も向上させることができ、専攻科棟入口に初期の作品“冬の唐門”と、図書館との渡り廊下の“渢韻”（2009年福井県水墨画展福井テレビ賞）を飾っていただいている。有難いことです。高専最後の仕事として国際交流委員長を拝命し、その結果校長先生から“2011年度の国際交流活動は大車輪の如し”と評されこれも皆様のお蔭と感謝しています。

最後に、停まらぬ車を徐々に方向転換していくうと思います。福井高専、万歳！

退職にあたって

定年退職にあたって

学生課教務係 田中 敏子



退職にあたって

学生課情報サービス係 三上 恵子

私は、1952年(昭和27年)の辰年生まれで2月に60歳になりました。1970年(昭和45年)に福井工業高等専門学校に職員として勤務以来42年の歳月が過ぎました。この間、二子を授かり、息子・娘も結婚・独立し、孫も誕生しました。福井高専に勤務当初は、同年代の学生と社会人として付き合いました。創立30周年記念式典挙行の頃は娘・息子と同じ年代の学生を見ながら、親としての心構えを痛感しました。4・5年後には、孫が進学先の学校として〇〇工学科を希望するかもしれません。創立50周年の記念日には近くでお祝申し上げようと思います。

今振り返れば、庶務課(現総務課総務系)6年9か月、学科系(旧土木工学科)9年、会計課(現総務課財務系)8年3か月、学生課(教務係・学生係・寮務係)18年といろいろな職域でその時その時、精一杯働かせていただきました。多々、皆様にご迷惑をおかけした事案もあったかと思いますが、どうぞご容赦ください。

なお、顔写真の提出を求められましたが、私は写真が嫌いなため、ありません。身長が145センチととても小さい白髪のメガネをかけたお婆さんです。これからも、体に気を付けて生活していく所存です。これまで、お世話になりました福井高専の皆様方に心から御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

最後に福井高専のこれからますますの発展を祈念しまして、退職にあたっての言葉とさせていただきます。

第一次オイルショック後の昭和49年4月に本校に採用されて38年が過ぎようとしています。

一般行政職で採用された私が図書館に配属され、その年に司書資格を習得して何とかここまでたどり着くことが出来ました。

当時は当然ながらパソコンもインターネットもなく、購入された図書の目録・分類をするのに頭を悩まし、1冊の図書を手元に1時間以上考え込んだり、洋書を持って先生方に教えを乞うたりの日々でした。

平成14年度に図書館システムが導入され、カウンターでの貸出・返却業務がバーコードを利用して簡易に行なうことが出来るようになりました。また、パソコン等から蔵書検索が可能になり、サービス全般をバックアップすることになりました。

先般、電機8社の2012年3月期の決算が1兆円の赤字と報じられました。戦後の日本のモノづくりを支えてきた企業がいつの間にか韓国・中国に追い越されてしまったのです。韓国企業の有機ELテレビに愕然とした日本人は大勢いたと思います。(外国製のテレビが日本の家電量販店に並んでないのは不思議なことです。)日本企業の不況が本校の今後の動向にどのような影響を与えるのか、案じられます。

今年の1月には東京大学が秋入学への移行計画を発表しました。「日本の常識、世界の非常識」の一つが春入学でしょうか。近い将来本校もその渦に巻き込まれる事になるのでしょうか。

最後になりましたが、福井高専の今後の発展と学生・卒業生・教職員の皆様のご活躍をお祈りいたします。

学生の将来と進路

平成23年度 進路内定状況報告

進路指導委員会委員長 小泉 貞之

今年度は、昨年3月の東北地方太平洋沖大震災の影響が大きく、企業によっては、採用開始時期を遅らせたり、採用数を極端に絞ったり、そのものを取りやめたりした。高専卒業生の就職は、他の高等教育機関に比べて有利であるとはいえ、いつものように進路が決まるかどうか心配であった。しかし、本科生および専攻科生の進路も、現時点においては、例年通りあと数名を残すところとなり、少し安堵している。これは、各学生本人のたゆまぬ努力の賜であるが、各学科の担任および専攻科教員を始め多くの関係した教職員のご支援とご協力のお陰と感謝せざるを得ない。誠に有り難うございました。

小生は、現4年生の担任も兼任しているがため、次年度の卒業生の推薦書を書き始めている。推薦書への記入項目が多くて、短い文章中にどのように盛り込むかの嬉しい苦労する学生がいる一方、書く項目が無く、思うように筆が進まない学生もいる。高専時代にこれに取り組んだ、これに燃えた、この方面的勉強をした、このような資格を得た、ということが必要である。中学時代は、それなりの活躍をして高専に入学しながら、高専において続けている学

生の少なさに驚く。企業によっては、A3版の紙面一杯に自己PRや自由記載、志望動機等を書かせる応募用紙が送付されてくる。応募の希望があっても書類に書き込むネタの少ない学生は、そのような就職先へは、応募前に敬遠せざるを得ない。また、同時に履歴書も点検しているが、採用の面接官にたずねると「好奇心旺盛」、「〇〇のリーダーとして活躍」、や「△△の印象」などの抽象的な言葉より、数字や具体的な事項の方が訴える力が大きいと言う。

卒業して立派な技術者として第一歩を踏み出す場合、まず立派な人間であらねばならない。その前提にたってこそ十分な社会活動が期待され、国際人として生長が約束される。優秀な成績と健康に加えて、良識のある視野の広い、そして積極的な明るい人間を社会は望んでいる。それは、すぐにできるものではなく、毎日の謙虚な努力の積み重ね以外にない。これから、キャリアを積もうとしている学生諸君は、「継続は力なり」を肝に命じて学生生活を送って欲しい。低学年の諸君は、就職活動を目の前にしてからでは、間に合わないことが多いので、今からでよいから始める必要がある。

平成23年度 進路内定状況

平成24年3月8日現在

学科	区分	卒業・修了予定者数	進学希望者数	内定者数			未定者数	就職希望者数	内定者数		未定者数	その他
				大学・大学院	専攻科	専門学校			県内	県外		
本科	機械工学科	35	13	7	5	1	0	22	6	16	0	0
	電気電子工学科	41(3)	16	10	6	0	0	25(3)	6	19(3)	0	0
	電子情報工学科	33(3)	15	12(2)	3	0	0	18(3)	8(2)	9(1)	1	0
	物質工学科	39(18)	18(9)	13(6)	4(3)	1	0	21(9)	7(6)	13(3)	1	0
	環境都市工学科	31(5)	13(4)	6(2)	6(2)	1	0	18(1)	10	8(1)	0	0
	小計	179(29)	75(13)	48(8)	24(5)	3	0	104(16)	37(8)	65(8)	2	0
専攻科	生産システム工学専攻	14(1)	4	3		1	0	10(1)	3(1)	7	0	0
	環境システム工学専攻	13(8)	0	0		0	0	13(8)	11(7)	2(1)	0	0
	小計	27(9)	4	3		1	0	23(9)	14(8)	9(1)	0	0
合計		206(38)	79(13)	51(8)	24(5)	4	0	127(25)	51(16)	74(9)	2	0

※表中の（ ）は女子で内数。

※大学・大学院には短期大学も含む

学生の将来と進路

平成23年度 大学編入学試験・高専専攻科入学試験合格状況

平成24年2月末日現在

大学等	学部等	学 科		機械工学科		電気電子工学科		電子情報工学科		物質工学科		環境都市工学科		合 計	
		推薦	学力	推薦	学力	推薦	学力	推薦	学力	推薦	学力	推薦	学力	推薦	学力
北海道大学	工 学 部											1(1)		1(1)	
千葉大学	工 学 部					1								1	
群馬大学	工 学 部							1							1
長岡技術科学大学	工 学 部				6			1(1)	4(1)			1(1)	1(1)	11(2)	
金沢大学	理 工 学 域	1			1									1	1
福井大学	工 学 部	1	1		3	1	5	1	2(2)					3	11(2)
岐阜大学	工 学 部				1							1		1	1
豊橋技術科学大学	工 学 部	2	1	3		2	2	2(1)	2	1			10(1)		5
三重大学	工 学 部		1									1			2
京都工芸繊維大学	工 芸 科 学 部		1				1								2
神戸大学	工 学 部						1								1
和歌山大学	シス テ ム 工 学 部				1							1			2
長崎大学	工 学 部				1										1
佐賀大学	理 工 学 部				1										1
福井高専専攻科	生産システム工学専攻	5		5	1	2	1							12	2
	環境システム工学専攻							3(3)	1	3(2)	3	6(5)	4		
計		9	4	8	15	6	11	7(5)	9(3)	6(3)	6(1)	36(8)	45(4)		

※表における合格者数は延べ人数を表す。()は女子で内数。

平成23年度 大学院入学試験合格状況

平成24年2月末日現在

大学院	専攻	生産システム工学専攻		環境システム工学専攻		合 計	
		推薦	学力	推薦	学力	推薦	学力
茨城大学 大学院			1				1
福井大学 大学院		1	1			1	1
奈良先端科学技術大学院大学		1				1	
計		2	2			2	2

※表における合格者数は延べ人数を表す。

活躍する仲間

全日本学生室内飛行ロボットコンテストに初参加

3EI 井上 俊之

私たち航空研究会は、研究奨励金を頂いたことにより、2つの目標を達成するためがんばることができました。

1つは高専祭でのデモフライトです。これはインドア飛行機の存在と航空研究会の活動内容を知ってもらう良い機会となりました。また、2つ目の目標である学生室内飛行ロボットコンテストに向けての良い練習にもなりました。

2つ目は学生室内飛行ロボットコンテストで優勝することです。私たちが出場した学生室内飛行ロボットコンテストは、大学、大学院、高専の学生たちが室内で遠隔操縦可能な航空機を設計から行い、製作した航空機を操作し得点を競い合うものです。今回で7回目の開催であり、出場チーム数が50を超える、レベルも高くなってきています。

今回の競技ルールは、滑走路から飛行を開始し、決められたエリア内で、与えられている課題をこなし、制限時間内に帰還するというものでした。1つの課題は、床に描かれている3か所の円の中心に出来るだけ近い場所に、一つずつお手玉を落とすことです。この課題を終えると、次の課題である宙返り、手放し飛行、ゲート通過に挑戦することができます。得点はこれらの課題による得点と接地等による減点から計算します。

この競技に対し、私たち航空研究会は、5Eの木

下先輩が設計した飛行機タイプの航空機「shooter - acro」で出場しました。この機体は、運動性能が非常に高く、操縦者の腕次第で正確にコントロールすることが可能なことが特徴です。また、パワーに十分余裕があり、機体が非常に軽いのでお手玉三つを搭載しても機首を上げて垂直にし、静止できるほどです。

大会での結果は、操縦者と航空機の頑張りにより、初出場にもかかわらず6位に入賞することができました。目標の優勝には惜しくも届きませんでしたが、大会を通して多くのことを学びました。

今後は先輩の残した功績に負けず、来年からは私たち4年生が主体となって航空研究会を先導していくと思います。まだまだ先輩と比べて未熟なところがたくさんありますが、仲間の短所をカバーしたい、来年の学生室内飛行ロボットコンテストの優勝を目指して頑張りたいと思います。

最後になりますが、研究奨励金のおかげで、このようなすばらしい経験をさせていただき、一同大変感謝しています。



飛行機に乗って ジンギスカンを食べに行こう!

5B 山口 舜也

全国高等専門学校デザインコンペティションは環境、構造、空間、ものづくりの4部門があり、全国の高専から予選を通過したチームが全国大会に出場することができます。今年度は11月12、13日に北海道の釧路で全国大会が開かれ、福井高専からは構造部門2チームと、ものづくり部門1チームが出場しました。

各部門にはそれぞれテーマが設定されており、私

が出場したものづくり部門は「紙で作る音楽」というテーマでした。また、大会全体のテーマが「ひらく」となっており、これを受け私のチームは、紙製アコーディオン「和紙衛門」を作成しました。

福井高専3チームは入賞するが出来ず、悔しい結果となってしまいました。しかし、立食会やポスターセッションでの他高専生との交流や、大会後の釧路観光など、楽しい思い出がたくさんでき、大会の結果以上に良い経験となりました。

私自身は最後のデザコンでしたが、後輩や専攻科1年生の先輩、専攻科に進む仲間には、来年度こそは入賞を目指して、また挑戦して欲しいです。

活躍する仲間

全国高専 英語プレゼンテーションコンテスト(プレコン)

2EI 前田 勝太

プレコンには一人で自由な演題について弁論するスピーチ部門とパワーポイント等のスライドを交え3人で発表するプレゼン部門の二部門あり、私はスピーチ部門に出場しました。

地区予選時はただ自分の思いを全力で訴えることを目標としてパフォーマンスしましたが、全国出場にあたり全国出場が叶わなかった人や応援してくれる方、力を貸して下さった方に応えるためにも先生方と原稿を書き直したり、一から発音を見直したりもしました。発音は今まで取り組んだことがなかつ

たので今回はThreeからやり直しました…。

全国での他の学校のスピーチ、プレゼンは素晴らしいです。是非Webに動画があるので見て下さい!!

話は変わりますが、この大会のポスターには「英語が使える高専!!」とありますが、実際に使えないからこう書かれるのだろうと私は思います。いつの日かこのプレコンがより多くの人が注目してもらえるくらい高専生が英語に興味を持てるようなカリキュラムを願うとともに、英語ができる高専生、英語が好きな高専生が一人でも増えることを願っています。

ソフトウェアコンペに 参加して分かったこと

3EI 山腰 貴大

私は去年に行われた「ふくいソフトウェアコンペティション2011」に簡単なユーティリティソフトを応募しました。このコンテストは1年の時から知っていて、何か作って応募したいなと考えていましたが、3年になって初めて応募することになりました。締め切りが近づいた頃に応募を決めたためあまり作り込むことが出来ず、入賞を逃してしまいました。今回の結果を踏まえて、コンテストに参加する際は締め切りまでに余裕があるものに参加し、時間をかけ細かい所まで作り込んでいきたいと思いました。

歯みがきロボットコンテスト 運営後援5年目

電子情報工学科教員 斎藤 徹

歯科医師会主催・福井高専後援による歯みがきロボットコンテストも今年で5回目となり、平成23年9月25日（日）に勝山越前大仏にて開催されました。

今年も電子情報の4年創造工学で取り組んできた藤原くんが、MindStormsをベースの車体で自律部門に参加しました。結果は調整がうまくいかず残念な結果でしたが、制御や準備の大切さを実体験してくれたと思います。

実は、私の子供もりモコン部門小学生の部で良い成績を出してきて、親ばかですが思い出に残る大会になりました。

活躍する仲間

優秀学生賞



日本機械学会
畠山賞
機械工学科5年
上坂凌司



電気学会北陸支部
優秀学生賞
電気電子工学科5年
上田直



(社)日本電気技術者協会
北陸支部
優良卒業生
電気電子工学科5年
渡邊晃典



映像情報メディア学会
北陸支部
優秀学生賞
電気電子工学科5年
田邊冬夢



電子情報通信学会
北陸支部
優秀学生賞
電子情報工学科5年
BAT ULZII TSEND OCHIR



情報処理学会北陸支部
優秀学生賞
電子情報工学科5年
久世彩加



日本化学会近畿支部
優秀学生賞
物質工学科5年
高村しいか



日本化学会近畿支部
優秀学生賞
物質工学科5年
小山友希



福井高専工業化学科
物質工学科同窓会
悠志会賞
物質工学科5年
藤田佳菜子



全国高専土木工学会
近藤賞
環境都市工学科5年
辻岡晃



福井高専土木工学科
環境都市工学科同窓会
翔土会賞
環境都市工学科5年
白崎佳祐



土木学会
土木教育賞（優秀賞）
環境都市工学科5年
松陰高大

活躍する仲間

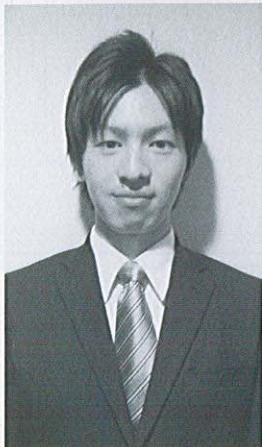
独立行政法人国立高等専門学校機構理事長表彰を受賞

専攻科 環境システム工学専攻2年、末永 英さんが国立高等専門学校機構理事長表彰を受賞しました。末永さんは、平成22年度のデザインパテントコンテストの大学部門に応募し、デザインして作り上げた「組み立て椅子」が平成23年1月28日に表彰されました。この作品は1枚の板から組み立て分解が容易な椅子で、十分な強度を備え、座板は円板状に形成され、支持板や脚板は半円状に形成されており、収納、運搬も容易です。また、ネジ等の固定具を一切使用しないという特徴をもち、全てが丸みをおびており、柔らかいソフトなイメージのデザインとなっています。大学部門での表彰者は全国で6名、高専所属の学生は末永さんのみでした。この表彰は、専攻科の必修科目「創造デザイン演習」の中で実施したデザインコンテストから生まれた成果で、福井高専の専攻科生が創造するデザイン力やデザインマインドを育てる教育の質の高さを全国にアピールする意味において多大な社会貢献をしました。

末永さんは、平成23年1月26日に特許庁に特許出願、3月9日に意匠登録出願。5月17日に福井新聞、5月21日に日本経済新聞に掲載され注目されました。6月9日FM福井のラジオ番組

「にっこりさばえ笑み」において「キラッと☆さばえスター」と題して10分間のインタビューが放送されました。8月20日に開催された鯖江市の環境フェアに木材の利用拡大を狙って出展しました。11月11日付けで意匠登録が確定し、日本弁理士会より意匠登録証が送られてきました。12月7日には、意匠登録に関する記事が福井新聞に掲載されました。この間、家具インテリア商品の企画・開発・製造・販売で有名なグローバル企業のマルイチセーリング株式会社様から製品化に向けた協力の申し出があり、幼児用の机と椅子が製作されました。現在、組み立て椅子を発展させた公共施設向けの長椅子が完成しています。末永さんは、平成24年1月27日に開催された平成23年度のパテントコンテスト・デザインパテントコンテストの表彰式において平成22年度意匠出願支援対象者6名を代表してデザインプレゼンテーションを行いました。

今回、末永さんは上記に記載された顕著な業績により国立高等専門学校の名誉を高めたことが認められたものです。コツコツと熱心に努力する研究態度、優れたデザインを生み出す閃きやデザインマインドが高く、将来性あるプロダクトデザインのリーダーとして今後の活躍が大いに期待されます。



活躍する仲間

平成23年度 資格取得者一覧 (速報・判明分のみ)

本科生

資格名	氏名	学年学科	氏名	学年学科	氏名	学年学科	氏名	学年学科
CAD利用技術者試験2級	伊藤 涼介	4M	梅田 雄太	4M	佐々木 優	4M	重森 晶喜	4M
	土田 啓介	4M	野尻紗也香	4M	橋本 祐樹	4M	長谷部崇仁	4M
	藤田 智人	3B	村上 雅俊	4B				
機械設計技術者試験3級	大野 航平	4M	尾中 哲哉	4M	高見瑚太郎	4M	道場 充	4M
	中川 貴史	4M	福田 和正	4M	藤井 祥太	4M	藤沢 侑哉	4M
	松井 俊晃	4M	三宅 純平	4M	山口 直弥	4M		
デジタル技術2級情報	柿木 大輔	4E	上辻 貴大	4EI	奥田 拓希	4EI	角本 壮	4EI
	加藤 雅大	4EI	齋藤 史剛	4EI	平等 悠介	4EI	高村 浩也	4EI
	玉村 実	4EI	西尾 力	4EI	前田 憲一	4EI	柳瀬 翔	4EI
	高木 良和	5EI						
デジタル技術3級制御	宗沢 優也	4E						
第三種電気主任技術者	五十嵐彬宏	5E	南出 大旺	5E				
第二種電気工事士	前田 剛	3E	久保田崇仁	4E	宗沢 優也	4E		
乙種第4類危険物取扱者	漆崎 亮平	4E						
	川崎 紅平	5E						
エックス線作業主任者	野田 宏彰	5E	藤堂 隼	5E	谷口 修一	5E	熊田 和浩	5E
	畠 昌宏	5E	町原 享佑	5E				
測量士補試験	佐々木憲史	3B	高木 俊典	3B	蓑輪 圭祐	3B		

専攻科生

資格名	氏名	学年専攻	氏名	学年専攻	氏名	学年専攻	氏名	学年専攻
デジタル技術2級情報	射庭 昌志	2PS						

活躍する仲間

海外インターンシップ

ISTSに参加して

2ES 端川 真理絵

初めて国際学会に参加し、英語で自分の研究発表を行いました。英語でプレゼンを行ったり、発言したりと、コミュニケーションをとることは思っていたよりも難しく、相手の言っていることを理解できても、伝えたいことも伝えられず、自分の実力のなさを痛感しました。

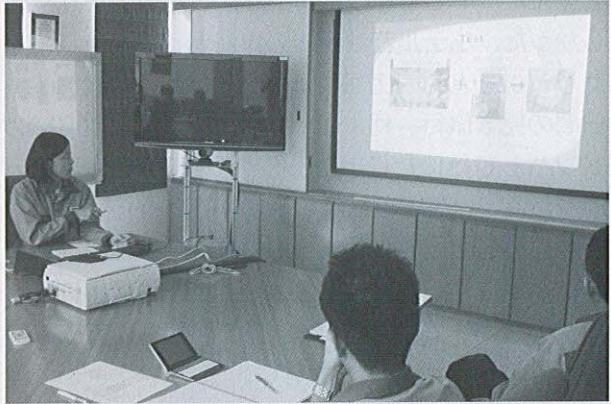
また、タイの学生や全国の高専生の意識の高さや向上心の高さを肌で感じ、とても多くの刺激をうけることができました。不慣れな英語ではありましたが、初めて外国の友達が出来、国内学会では体験できないような、素晴らしい経験をすることが出来ました。楽しかったです。



海外インターンシップに参加して

2PS 重野 里加子

私は昨夏、力ネカマレーシアで3週間の研修を行った。毎日楽しすぎた。様々なことを経験し、現地のスタッフの方や海外で働く日本人の方と沢山話をして、学んだことは本当に多く、特別な知識や高い語学力を得たわけではないが、自分の中に海外で働くことに対する下地ができたことが大きな収穫だった。仕事も言葉も文化も宗教も人も食事も、すべてが新鮮で刺激的な中、吸収したものを今後どう活かすかを常に考えたこの3週間は自分を大きく成長させたと思う。改めてこの貴重な機会を与えられたことと、ご協力いただいた皆様に感謝したい。



見学旅行

見学旅行について

旅行で見つけた大切なものの

3M 山本 淳

まさに百聞は一見にしかずだ。神戸製鋼では熱間圧延を目の当たりにした。既に授業で習い想像はできていたが、実際の迫力に圧倒されっぱなしだった。加藤先生の不可解な効果音もやっと理解できた。現場の音やにおい、熱気など身をもって体感することができたのは、実際にやってみたからこそであろう。また会社では経営者も従業員も、先輩も後輩も、事務の人も現場の人も、良いものを客に届けようと皆が協力して1つのチームになって必死で働いているのだと感じた。それはとても素晴らしいことであり大切なことである。この見学で実際に会社の雰囲気に触れ、そのように感じることができた。

工場見学後はみんなで観光！電動自転車に感動。雨の軍艦島でのレクチャー。異様な光景に不気味さを覚えた。そしてハウステンボス。バーガーが美味しかった。ホテルでは貸切の大浴場でフィーバーしたり、いろんな話で盛り上がったり…。たった4日間の見学旅行。何よりもよかったですのはこの3Mのメンバーで行けたことだろう。今まで共に勉強し、ふざけ合い、怒られ、笑い合い、これからも共に歩んでいくこの仲間たち。この仲間たちと様々な貴重な体験ができたことは掛け替えのない思い出になるに違いない。この旅行での1番の収穫は他でもない「仲間」だったのかもしれない。



見学旅行を終えて

3E 杉本 翔里

11月7日から12日まで工場見学旅行に行きました。1日目と2日目で長浜キャノン、三菱重工神戸造船所、八丁原地熱発電所を見学しました。最初に見学した長浜キャノンは主にLBP(レーザビームプリンタ)、CRG(カートリッジ)、a-Si(アモルファスシリコンドラム)などを作っている工程を見学しました。

次に見学した三菱重工神戸製造所では船舶やディーゼルエンジンなどを作っている工程を、八丁原地熱発電所では発電システムについて詳しく教えていただきました。どの工場でも貴重な体験ができてよかったです。

工場見学が終わってから、大きい橋、阿蘇ファームヴィレッジ、長崎観光、どんこ舟、ハウステンボスなどに行きました。どの場所も楽しかったです。特にハウステンボスは街並みや夜景もすごく綺麗でした。

その後の自主研修では博多周辺を散策し、中洲の屋台で博多ラーメンを食べて博多で一泊、大阪では通天閣に行ったり、串カツを食べたりして大阪の雰囲気を楽しみました。今回、始めて一から自分たちで計画しての旅行を経験していろんなことを学びました。

この経験をこれからの学生生活に活かしていきたいと思います。



見学旅行

見学旅行について

ソウルに行ってきました

3EI 大村 匠

「チョヌン オオムラタクミ イムニダ。」
旅行前に受けた英語の授業がなぜか韓国語講座になってしまい、そこで僕は「僕の名前は大村匠です。」という一文だけしっかりと憶え旅行に臨んだ。けれども、使う場面は一度もなかった。

韓国の話をする前に日本での工場見学の話をしよう。LIXILは住宅設備機器の最大手だ。僕たちが訪れたのはLIXILのトイレを製造している工場だった。生産ラインの見学では部品をすぐ取れるように体の前にのみ部品を置くようにしているなど効率を上げる工夫が随所にしてあり感心した。

ソウルでの四日間は感動の連続だった。ソウルは東京並みもしくはそれ以上に高層ビルが立ち並んでいてアーティスティックな建物もいたるところにあった。けれど、東京のように精錬された感じではなかった。ウォンを使っての買い物はとても新鮮だったが、韓国の怖さを思い知った。クラスの友達が御釣りを誤魔化されそうになったのだ。

アサンにあるヒュンダイの工場、サムスンの展示館では韓国の技術力の高さをさまざまと見せつけられ、今後の日本の立場がなくなってしまうようを感じた。

世界遺産に行ったり、地元の大学生と交流したり、キムチを作ったり、夜中、ホテルで××したりと凄く充実した毎日だった。

その後の自主旅行も含め僕にとっては人生で一番楽しい一週間だった。残りの高専生活、ソウルで得ることのできた熱いソウルで毎日を過ごしていきたい。



研修旅行で学んだこと、考えたこと

3C 市橋 梨奈

研修旅行では3つの企業に行きました。ユニチカやダイキンでは、作業をしている工場の中を見学しました。すぐ側を機械が通ったり、作業をしている方はすごく手早く自分のやるべき作業をしてたりして、生の現場は思っていたよりすごいところだと思いました。また、シャボン玉せっけんは会社のこだわりがすごいと思いました。少しでも環境や人や生き物の良いものを作りたいという思いが伝わってきました。私も自分のこだわりや信念をもって仕事や勉強をしたいと思いました。自主研修旅行では、自分たちでしっかり事前に調べて計画を立てることの大切さを改めて感じました。初めての場所で何も分からるのはすごく不安になります。だから事前にたくさん調べてきちんと準備をすることが大事だと思いました。これは勉強や実験でも同じだと思います。事前にしっかり調べて計画を立てて準備万端の状態で勉強や実験を行うとだいたいうまくいくますが、準備を怠るといざというときにどうしたらいいかわからなくなります。しっかりした準備は、普段の生活でもとても大事だと思いました。研修旅行はとても楽しくていい思い出になりました。



見学旅行・校外研修

見学旅行・校外研修について

見学旅行で…

3B 佐々木 憲史

11月7日からの5日間、私たちは研修旅行に行きました。兵庫県では、まず北淡震災記念公園に行き阪神淡路大震災で被災された方から防災で大切なことであったり、震災が起きた時の状況のお話を聞かせていただきました。今年、日本で大きな地震が起きて皆の関心が大きくなっていた中だったので、色々なことを吸収できました。その後、世界的建築家である安藤忠雄氏が設計した淡路夢舞台に行きました。「光の教会」や国際会議室が印象的でした。沖縄県では、美ら海水族館や首里城、揚水発電所を見学しました。美ら海や首里城は沖縄を感じることができ、海水を利用した沖縄やんばる海水揚水発電所では、安全で安定性に優れる一方で費用がかかるなど発電所の長所と短所を学べました。2日目の夕食では、海岸沿いのテラスでバーベキューをしました。美しい景色を見ながら、食事ができて楽しかったです。ただ、この見学旅行では終始雨に見舞われました。国際通りを雨の中走るなど沖縄の気候を肌で感じ、文化を知り初めてのことばかりでとても思い出深いものとなりました。



校外研修にて

2E 太田 龍二

10月27日に校外研修がありました。僕たち2年電気電子工学科は、北陸電力新武生変電所、株式会社フクタ力に行きました。

高専を出発して、まず初めに北陸電力新武生変電所に行きました。この変電所では、越前市全域と鯖江市の半分近くの電気を扱っているそうです。変電所の役割、種類、主要機器やどのようにして私たちの生活に電気が届くのかなど色々な話を聞きました。最後の所長さんの話で若い内は、「健康第一」「疑問を持つ」「冒険する」の3つを大切にしてほしいという言葉が印象に残っています。

次は株式会社フクタ力に行きました。このフクタ力で作った部品が北陸地方や親会社である愛知県の高木製作所へ届けられ、高木製作所から海外へも輸出されています。ここでは、フクタ力の作業の内容やフクタ力の強みや製品紹介などの話があり、また工場内を実際に見学しました。工場内はすごい大きな音が鳴り響いていました。機械も見たこともないようなものばかりで楽しい見学になりました。色々な話の中で印象に残った言葉もあります。「5S」というもので、整理、清潔、整頓、しつけ、清掃の5つのSという意味です。このことを忘れずこれから生活ていきたいです。



校外研修

校外研修について

校外研修を終えて

2C 愛宕 由麻

今回の研修では鯖江村田製作所とパナソニックを訪問しました。村田製作所では、危険物を扱っているので危険物の資格は取っておいた方がいいと言われ、資格取得を頑張りたいと思いました。部署によっても便利な資格・使わない資格があるらしいので、今のうちに将来のことを考えてある程度決めておいた方がいいのかなと思いました。

パナソニックでは、TOEICのテストを月ごとに受けなければならないと言っていたので、英語もしっかり勉強しておきたいです。また、掲示物が興味深く、特に細かな電子部品で写真やパンダの絵を作っていたのは驚きました。

今回見学した研修先は、二つとも細かな部品を取り扱う会社だったので梱包の仕方や流れなど似ているところもあるからこそ、それぞれの部署や会社による違いなどが分かって面白かったです。OBの方がおっしゃられていた「勉強はちゃんとしておいたほうがいい」という言葉がすごく今の自分に響きました。



平成23年度 第2学年校外研修先一覧

学 科	日 時	研 修 先	引率者
機械工学科 2年		兵神装備株式会社 日本電気硝子株式会社 滋賀高月事業所	大久保 弦 亀山 建太郎 千徳 英介
電気電子工学科 2年		北陸電力株式会社 新武生変電所 株式会社フクタカ 三室工場・高月工場	山田 孝 佐藤 匡昂
電子情報工学科 2年	10月27日(木)	株式会社松浦機械製作所	岡本 拓夫 野川 之男 前田 公也
物質工学科 2年		株式会社鯖江村田製作所 パナソニックエレクトロニクスジャパン(株)回路部分ディビジョン	宮本 友紀 平井 恵子
環境都市工学科 2年		福井県丹南土木事務所(道路改良工事:ホノケ山トンネル) 福井市治水記念館 福井市建設部河川課(江端川排水機場)	小寺 光雄 廣部 英一

遠足

遠足について

なんだかんだ言っても

F1クラス学級担任 加藤 清考

昨年の10月27日は遠足があり、F1クラスの行き先は足羽山動物園でした。遠足の行き先については、前期のうちから特活の時間を使って話し合いましたが、京都や金沢などの県外に行きたいという学生や、ボーリングに行きたいという学生などいろいろおり、なかなか意見がまとまりませんでした。こういうところが、F1らしい。結局、後期に入つて遠足の計画の締め切り期限が迫ったところで、担任である私の一存で足羽山散策に決めたところ、学生からは大ブーイングであった。

JR福井駅に集合し、北の庄城址・柴田公園、福井市自然史博物館を経由して足羽山動物園で昼食をとりました。北の庄城見学は、昨年の大河ドラマが江であったこともあり、タイムリーな選択でした。自然史博物館では幸運にも天体望遠鏡で太陽の黒点を観察できました。

距離的にはそれほどでもなかったのですが、足羽山は高低差がかなりあり、特に百坂は120段もあるかなり急な階段で登り切ったところで、私も含めて大部分の学生が座り込んでしまいました。博物館と動物園では、同じく遠足に来ていた小学生と一緒にになりましたが、学生から「僕たち小学生と一緒にですか・・・」と切なげに言われた時は、さすがに遠足の行き先として他の場所を選ぶべきだったかなとも思いました。

後日、みんなの感想文を読んで、なんだかんだ言っても、結構楽しかったという意見が多く、よい思い出になったのではないかと思います。お疲れ様でした。

僕の初体験

F3 梅田 幹人

その日、僕はある一線を越えた。その日はじめて僕は、鯖江駅で降りずにそのまま電車に乗りつづけた。そこからの外の景色は、未知のもので新鮮だった。そのため、思っていたよりもずっと早く京都についたような気がした。だけど時間的にはほとんど予定とかわらなかった。京都についてからの時間はあつという間に過ぎていった。僕のグループは最初に電車に乗って四条に行った。四条では市場らしき所を行った。そこでは食べ歩きをした。一時間半ぐらいその辺りをぶらぶらした後、再び電車に乗つて京都駅の方へ戻った。京都駅に戻ってからは、昼ごはんのラーメンを食べるため、そのラーメン屋を探した。二十分ぐらいもかかるて大変だったけどその分ラーメンがおいしかった。ラーメン屋を出た時には残り一時間ぐらいだったので僕たちは適当に駅周辺をうろうろしていた。そこでおみやげを買ったりするうちに集合時間に近くなっていた。駅に戻ると半分ぐらいの人がもういてみんなどこに行ったかや何を買ったかを話していたので僕たちもその中に加わった。話しているうちにだんだんと同じクラスの人が増えてきて話も盛り上がっていった。



コンテスト表彰式

第17回 マグネットコンテスト表彰式

福井高専は、平成24年2月15日、サバエシティーホテルにおいて「第17回マグネットコンテスト」入賞者の表彰式を執り行いました。

本コンテストは、ものづくり教育の一環として、レア・アースマグネットの世界的生産拠点である信越化学工業（株）武生工場の協力を得て平成7年度から実施しているもので、第17回となる今回は『生活・くらし』『健康・ふくし』『環境・エネルギー』の3つのテーマでアイデアを募集したところ、県内外の小中学生、高校生、高専生、大学生から総数1,548件ものアイデア作品が寄せられました。

厳正なる審査の結果、『生活・くらし』から最優秀賞「Eee」を含む11作品が、『健康・ふくし』から最優秀賞「マグネットロード」を含む3作品が、『環境・エネルギー』から最優秀賞「Fan and mix」を含む6作品が選ばれました。表彰式会場には、最優秀賞および優秀賞受賞作品のパネルが展示され、参加者は興味深そうに見入っていました。



表彰を受けた受賞者たち

第8回 さばえめがねワクwakuコンテスト表彰式

平成24年1月25日、鯖江商工会議所において「第8回さばえめがねワクwakuコンテスト」入賞者の表彰式を開催しました。

本コンテストは、鯖江商工会議所共催、（社）福井県眼鏡協会後援のもと、福井高専が立地する鯖江市が眼鏡枠工業の世界的な生産拠点であることに鑑み、近年における児童・生徒の理科離れ対策及びものづくり教育の一環として平成16年度から実施しているもので、眼鏡枠の機能やデザイン、レンズなどに関するアイデアを広く全国の小・中・高・大学生、高専生から募集しました。8回目となる今回は、県内外から【実用化部門】【デザイン部門】合わせて1,859作品の応募がありました。

厳正なる審査の結果、【実用化部門】には最優秀賞の「味見メガネ」を含む18作品が、【デザイン部門】には最優秀賞の「古都」を含む18作品が入賞しました。



表彰を受けた受賞者たち

中学生の皆さんへ・学園通信

中学校だより

本校は、昭和26年4月に坂井郡鶴村立鶴中学校、同大安寺村立大安寺中学校、同本郷村立本郷中学校が統合され、組合立川西中学校が誕生した。

その後、昭和42年の町村合併により福井市に合併され、福井市川西中学校に改称された。

今日までの卒業生5千余名は「自主」「明朗」「節度」の校訓を心に深く刻み、卒業後も社会生活、家庭生活のあらゆる場面においてこの校訓を胸に日々、実践努力している。

校区は、福井市北西部の自然が豊かな鶴地区・宮ノ下地区・本郷地区である。平成17年と21年には国の特別天然記念物に指定されているにコウノトリが飛来した事もあり、鶴地区は絶滅危惧種に指定されている「ミズアオイ」の育成を中心とした環境保全に努め、宮ノ下地区は休耕田を利用した「コスモス広苑」でコスモス栽培を行っている。また本郷地区においても「イチジク」栽培が有名である。

全校生徒は平成23年度現在、155名で普通学

自主・明朗・節度

福井市 川西中学校

級が各学年2クラス、特別支援学級が1クラスの計7学級である。地域や保護者の学校に対する理解は厚く、挨拶運動や見守り活動等に大変ご協力を頂いている。またPTA活動も盛んで単PやブロックPTA活動等にも熱心に取り組んでいる。そんな温かい人々と風土に恵まれた環境で生徒たちは健やかに、熱心に勉学に励んでいる。



平成24年度 入学者選抜について

平成24年度入学者選抜は、推薦選抜が1月22日(日)に本校で作文と面接を、学力選抜検査が2月19日(日)に本校と福井市地域交流プラザ、あわら市中央公民館、敦賀商工会議所及び滋賀大学経済学部で理科、英語、数学、国語、社会の5科目により実施された。

2月22日(水)午後1時に201名の合格者を発表した。うち県外合格者は13名(滋賀県11名、石川県1名、愛知県1名)であった。

なお、合格者受験番号を本校掲示板及びホームページ上に掲載した。

平成24年度 入学者選抜実施状況一覧

学 科	募集人員	志願者数			合 格 者 数			計
		推 薦	学力検査	倍 率	推 薦	学力検査		
						工学基礎コース(内数)		
機 械 工 学 科	40人	13 (1)人	51 (1)人	1.60倍	13 (1)人	27 (1)人	8 (1)人	40 (2)人
電 気 電 子 工 学 科	40	22 (2)	35	1.43	18 (2)	22	8 人	40 (2)
電 子 情 報 工 学 科	40	28 (8)	45 (2)	1.83	18 (7)	22 (1)	9 人	40 (8)
物 質 工 学 科	40	34 (16)	30 (6)	1.60	18 (11)	23 (6)	9 (2)人	41 (17)
環 境 都 市 工 学 科	40	25 (14)	32 (9)	1.43	18 (10)	22 (7)	8 (4)人	40 (17)
計	200	122 (41)	193 (18)	1.58	85 (31)	116 (15)	42 (7)	201 (46)

(備考) (1) () 内の数字は、女子で内数。 (2)倍率=志願者(推薦+学力検査)÷募集人員

平成23年度 留学生との懇親会報告

留学生主任 吉田 三郎

さる1月17日に、鯖江市国際交流協会から5名の方々をお招きして本校留学生との懇親会が開かれました。

池田校長の歓迎挨拶と上島副校長の乾杯挨拶の後しばらく談笑の後に国際交流協会会长のご挨拶をいただき、今年新たに本校にて勉学を始めた留学生たちには自己紹介と母国の紹介スライドを発表してもらいました。アジアの諸国を狭いステレオタイプな目で見てしまうと、例えばモンゴルの国なら草原での生活や大相撲で活躍する力士たちの顔が浮かんできますが、今回は2000年以上の歴史や現代産業の発展状況など不勉強に驚き反省させられました。マラッカ海峡の歴史もヨーロッパ中心の世界史で受験勉強を乗り切ってきた身

にはうーんと唸ってしまう優れたプレゼンでありました。その後のツエンデ君の3年間の想いをこめたアドバイスや、山本君のチューター代表挨拶もユニークなものでした。

留学生のアトラクションとして、毎年恒例の歌の披露があります。日本語の歌詞の中には、留学生たちも惹かれるものがあるのだなあと感心したり、意外に感じたりと楽しい時間です。今年はさらにダンザン君の「ケン玉」というスーパーアトラクションに会場が大いに沸きました。まさにプロ級の腕前で、来年もアンコールで披露してもらいたいと強く思います。

最後に藤田副校長のあいさつでお開きとなりましたが、その後も会場撤収の時間ギリギリまで学生たちの話は尽きませんでした。

平成23年度校長特別賞・校長賞受賞

校長特別賞

●第46回全国高等専門学校体育大会(優勝)				
◎男子テニス(個人ダブルス)	小泉 勇樹	(5B)	石橋 一眞	(4M)

校長賞

●第46回北陸地区高等専門学校体育大会(優勝)				
◎陸上(男子走高跳び)	山岸 将之	(5C)		
(男子200m)	伊吹 敏太	(2E1)		
(男子5000m)	久島 慎	(2C)		
◎好ワクトニス(個人ダブルス)	山下 茉莉	(F2)	前川 華歩	(F2)
◎男子テニス(個人ダブルス)	小泉 勇樹	(5B)	石橋 一眞	(4M)
◎男子テニス(個人シングルス)	小泉 勇樹	(5B)		
◎水泳(50m自由形)	幸山 将大	(3M)		
◎剣道男子個人	岸下 優介	(4E)		

●東海北陸地区高専ロボコン大会(デザイン賞)					
土田 啓介	(4M)	山田 諒仁	(3E)	伊藤 涼介	(4M)
梅田 雄太	(4M)	漆崎 亮平	(4E)	近藤 剛志	(3M)
明頓 耕平	(3M)	山口 純一	(3EI)		
●「組み立て椅子」意匠登録					
末永 英	(2ES)				

平成24年度教育後援会総会

次のとおり総会を開催しますので保護者の方はご出席下さい。

期日 平成24年4月4日(水) 正午から

場所 本校 第一体育館

会次第

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 校長あいさつ
4. 報告事業
学校の状況について
5. 審議事項
 - (1)平成23年度事業報告案及び決算案について
 - (2)平成24年度役員選出について
 - (3)平成24年度事業計画案及び予算案について
 - (4)その他
6. 閉会

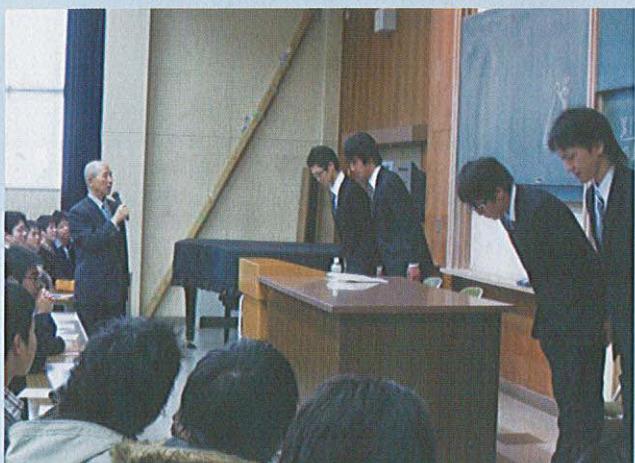
高専生活の一コマ



オーストラリア国バララット大学の学生が本校を訪問



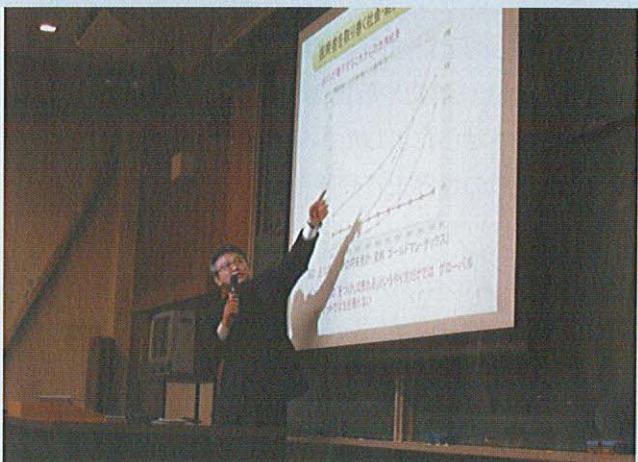
スキー・スノーボード体験ツアー（外国人留学生）



第6回キャリア教育セミナーを開催



平成23年度校長特別賞・校長賞授与式



長岡技術科大学アドバンストコース説明会



学生の自殺予防に関する講演会



題字 池田大祐校長、マーク 本校ロゴマーク
平成24年3月16日発行 ☆福井工業高等専門学校
☆〒916-8507 鯖江市下司町 TEL 0778-62-1111代